

IAMAS ARTIST FILE #07

ウィデオ／からだと情報

videō body & information

木村悟之 KIMURA Noriyuki

萩原健一 HAGIHARA Kenichi

堀井哲史 HORII Satoshi

<https://www.iamas.ac.jp/af/07/>

Institute of Advanced Media Arts and Sciences

12.21^{TUE.} – 03.06^{SUN.}
2021 2022 岐阜県美術館 展示室 2
The Museum of Fine Arts, Gifu
10:00 – 18:00 [入場は17:30まで]

休館日：
月曜日 [祝日の場合はその翌平日]、
年末年始 [12月27日(月) - 2022年1月4日(火)]

夜間開館日：
2022年1月21日(金)、2月18日(金)は20:00まで開館 [入場は19:30まで]

観覧料：一般 340 円(280 円)、大学生 220 円(160 円)、高校生以下は無料
※()内は 20 名以上の団体料金
※所蔵品展示、「日本洋画 美の系譜」の観覧券でご入場いただけます。
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、難病に関する医療費受給者証の
交付を受けている方およびその付き添いの方(1名まで)は無料

 岐阜県美術館
THE MUSEUM OF FINE ARTS, GIFU

岐阜市宇佐 4-1-22 Tel. 058-271-1313 Fax 058-271-1315
<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp> twitter @gifukenbi
<https://www.facebook.com/gifukenbi.jp>

主催：岐阜県美術館、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]
協力：IAMAS タイムベースドメディア・プロジェクト

video

岐阜県美術館とIAMAS*が2013年から2019年まで6回に渡って共催したIAMAS ARTIST FILEシリーズの7回目。本展では、映像メディアによる表現を展開してきた3名のIAMAS出身アーティストを紹介します。展覧会タイトルは「ビデオ／からだと情報」。普段よく耳にする電子的な映像を表す「ビデオ」の語源は、ラテン語の「videō（ヴィデオ）」であり、それには「私は見る」といった意味があります。映像表現のなかでも「からだと情報」の関係に着目した三人三様の「見る仕事」を展示します。

木村悟之 | KIMURA Noriyuki

1977年生まれ。映像作家。IAMAS修了。自ら設定した規則に従って撮影を行う『軌跡映画』が代表作。主な展覧会・発表に、2019年「21st DOMANI・明日展」(国立新美術館)、2015年、第18回文化庁メディア芸術祭受賞作品展(国立新美術館、審査員推薦作品)、2014年、第60回オーバー・ハウゼン国際短編映画祭(Second Prize, MuVi Award, ドイツ)、2013年、Film by Music(山口情報芸術センター[YCAM])。2006年、DVD『軌跡映画 1』をSOL CHORDより出版。2016-2017年、文化庁新進芸術家海外研修員、ドイツ(ケルンメディア大学(KHM)およびデュッセルドルフ)滞在。現在、石川県を拠点に活動。

萩原健一 | HAGIHARA Kenichi

1978年山形生まれ。研究者／映像作家。2002年にIAMASマルチメディアスタジオ科DSPコース入学。写真表現を軸に、映像メディアを用いて作品制作をおこなう。2005年文化庁新進芸術家国内研修として山口情報芸術センター[YCAM]滞在后、2007年、IAMAS修了。IAMAS助教を経て、2017年より秋田公立美術大学准教授。企業やプログラマーと協働したメディア教育教材の開発を研究の軸としている。『sight seeing spot』にてART AWARD TOKYO 2007特別賞受賞、また同作品は第11回文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員会推薦作品となる。主な展覧会に、scopic measure#6(山口情報芸術センター、2007)、Media/Art Kitchen(東南アジア、2013)など。

堀井哲史 | HORII Satoshi

1978年生まれ。ビジュアルアーティスト/プログラマー。ライゾマティクス所属。東京造形大学デザイン学科、国際情報科学芸術アカデミー[IAMAS**] DSPコース卒。既存のソフトウェアやツールに頼らない、コンピュータならではの動的な絵作りからプログラミングまで一貫して行い、インタラクティブ作品、映像制作を、エンターテインメント、アート等様々なフィールドで行っている。プログラミング/デザインを担当した『Perfume Global Site Project』は第16回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門大賞、カンヌ国際広告祭等多数受賞。2014年、elevenplayの『MOSAIC』では映像を担当、14年度のD&D年鑑に、脳波をビジュアライズしたグラフィックを提供するなど、形態にとられない制作活動をしている。



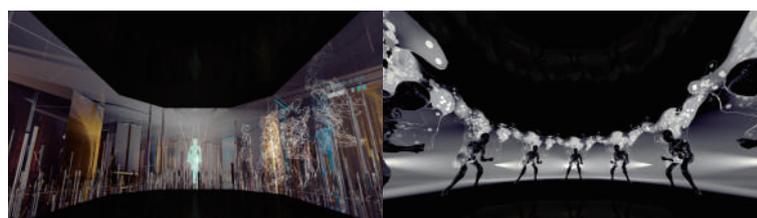
同時開催 |

- 展示室1 所蔵品展示
- 展示室3 「new-fashioned: 日本洋画 美の系譜」2021年12月10日(金)–2022年3月13日(日)
- アトリエ 「AiM Vol.11 横山奈美」作品展示 2021年12月21日(火)–2022年1月23日(日)

IAMAS ARTIST FILE #07 ヴィデオ／からだと情報 body & information

会場：岐阜県美術館 展示室2(岐阜市宇佐4-1-22)
会期：2021年12月21日(火)–2022年3月6日(日) 10:00-18:00 [入場は17:30まで]
休館日：月曜日[祝日の場合はその翌平日]、年末年始[2021年12月27日(月)–2022年1月4日(火)]
夜間開館日：2022年1月21日(金)、2月18日(金)は20:00まで開館 [入場は19:30まで]

主催：岐阜県美術館、情報科学芸術大学院大学[IAMAS]
協力：IAMASタイムベースドメディア・プロジェクト
本展は、今年度の「アーティスト・イン・レジデンス」(岐阜県内での滞在制作支援事業)で制作された作品を、あわせて展示します。



* IAMAS(イアマス)=岐阜県立情報科学芸術大学院大学の略称
** 専修学校(1996-2012)。2001年に情報科学芸術大学院大学が併設され、共にIAMASの略称。

アクセス |

公共交通機関 |

JR東海道本線西岐阜駅南口から徒歩(約15分)
岐阜バス(鏡島市橋線)：JR岐阜駅前[6番乗場]または名鉄岐阜駅前[1番乗場]で「市橋」行きに乗車(約15分)⇒「県美術館」下車
岐阜市コミュニティバス：西ぎふ・くるくるバス[1日7便、市橋地区循環、JR西岐阜駅南口から乗車(約5分、復路約30分)]
すまいるバス[1日9便、三里・本荘地区循環]⇒「県図書館・美術館」下車

タクシー | JR東海道本線岐阜駅および名鉄岐阜駅から乗車(約10分)

自家用車 | 名神高速道路岐阜羽島ICから県庁方面へ北進約10km
東海北陸自動車道岐阜各務原ICから国道21号線を西進約10km
※無料駐車場有
※美術館北東の「おもいやり駐車場」(6台)もご利用いただけます。(無料)

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、予定を変更する場合があります。事前に当館 Web サイトでご確認ください。

来館者のみなさまへお願い |

- 岐阜県美術館では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、安全に配慮した取り組みを行っています。
- 一 発熱、咳などの風邪症状がある方、体調がすぐれない方はご来館をお控えください。
- 一 入館にあたり、マスクの持参・着用、こまめな手洗い・消毒、来館者同士の距離の確保にご協力ください。

